

大谷中学校だより



NO9



URL <http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~ootanj/NC2/>

H26年9月16日発行

国・県基礎学力調査の結果

8月26日の新聞報道で、全国学力調査の結果が報告されました。石川県は小学校、中学校とも全国ベスト5に入る成績でした。この調査は、生徒の基礎的・基本的知識・技能や活用力の定着状況、及び学習・生活状況について把握・分析し、学校における児童生徒への教育指導の改善を図る。併せて、教員の指導状況を把握し、指導改善に役立てることが目的とされています。

調査は学力だけでなく、生活アンケートも実施されます。その中で、文科省は『携帯やスマホ』を扱っている時間が長ければ長いほど学力が低いと言っています。ぜひ、子ども達とゲーム機やアイポッド、携帯、スマホなどの使用についてマナーや約束をさせて行ってほしいものです。

今年度の3年生の学習状況が調査状況を保護者の皆様にお知らせしたいと思います。全国や県と比較して弱点の部分です。2学期はこのことを改善して定着させたいと思っています。

| 各科目の平均正答率上位都道府県 (%) | | | | |
|---------------------|------|---------|---------|---------|
| | 国語A | 国語B | 算数A | 算数B |
| 全国 | 72.9 | 55.5 | 78.1 | 58.2 |
| 秋田 | 77.4 | 67.3 | 85.1 | 66.2 |
| 鳥取 | 77.0 | 石川 62.7 | 福井 83.1 | 福井 64.1 |
| 茨城 | 76.9 | 福井 61.8 | 石川 82.5 | 石川 63.6 |
| 青森 | 76.6 | 青森 60.5 | 青森 81.3 | 富山 62.0 |
| 広島 | 75.9 | 富山 59.5 | 富山 81.0 | 東京 61.2 |
| 石川 | 74.1 | | | |

| | 国語A | 国語B | 数学A | 数学B |
|----|------|---------|---------|---------|
| 全国 | 79.4 | 51.0 | 67.4 | 59.8 |
| 秋田 | 84.4 | 福井 55.9 | 福井 74.8 | 福井 66.9 |
| 福井 | 83.0 | 秋田 55.8 | 秋田 73.0 | 秋田 65.5 |
| 富山 | 82.3 | 富山 55.1 | 富山 71.1 | 静岡 63.7 |
| 石川 | 81.9 | 群馬 54.2 | 石川 70.9 | 富山 63.6 |
| 群馬 | 81.1 | 石川 53.7 | 静岡 70.9 | 石川 63.4 |

| 石川県の全国順位(公立学校) | | 2007 08 09 10 12 13 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|------|------------------------|----|----|----|----|----|--------------|---|---|----|---|---|---|--------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2007 | 08 | 09 | 10 | 12 | 13 | 14 | 活用(注)に関するB問題 | | | | | | | 活用(注)に関するA問題 | | | | | | | | | |
| 小6国語 | 8 | 11 | 5 | 10 | 3 | 4 | 14 | 11 | 3 | 7 | 10 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 小6算数 | 8 | 6 | 7 | 8 | 2 | 4 | 3 | 12 | 5 | 4 | 7 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 小6理科 | - | - | - | - | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 中3国語 | 5 | 5 | 5 | 4 | 6 | 6 | 4 | 4 | 6 | 7 | 8 | 5 | 3 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 中3数学 | 5 | 9 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 5 | 5 | 3 | 4 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 中3理科 | - | - | - | - | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

※平均正答率で比較。10、12年度は抽出方式のため正答率に幅があり、中間値

スマホ使用で学力低下傾向

平成 26 年 4 月 22 日実施
平成 26 年 8 月 26 日結果発表

| 国語 A (県比較 やや高い) 正答率50%未満の分析・改善 | | |
|--|----------|-----------|
| 問題内容 | 誤答の内容や傾向 | 改善の具体的な方策 |
| なし | なし | なし |
| 領域、分野ごとの到達度傾向 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み、語句の意味や使い方、歴史的仮名遣いなど言語に関する問題については、ほとんどできていた。一方漢字の書き取りについては、一部の生徒で克服できていない。 話し合いの進め方や多様な材料を使って考えをまとめるような表現力に関わる問題では困難を感じる生徒がいる。 | | |

| 国語 B (県比較 非常に高い) 正答率50%未満の分析・改善 | | |
|--|--|--|
| 問題内容 | 誤答の内容や傾向 | 改善の具体的な方策 |
| <ul style="list-style-type: none"> 本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する。 落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿様の気持ちを想像して書く。 | <ul style="list-style-type: none"> 選択肢の問題で紛らわしい表現に惑わされて答える生徒が多かった。 半数が無解答であった。また、根拠の説明で不適切なものがあった。 | <ul style="list-style-type: none"> 選択肢の問題の解き方の指導及び誤読をしないためにも要旨を捉える指導を適宜行う。 自分なりの考えを持てるよう、常に問題意識を持って読む習慣を付ける。また、表現力を付けるため、授業のまとめとしてノートに分かったことや感想を制限時間内に書く取り組みをする。 |
| 領域、分野ごとの到達度傾向 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 表現技法について、基本的なことを全員理解していた。 複数の資料を比較して読み、要旨を捉える問題はほとんどできていない。 根拠を明確にして自分の考えを書くことを苦手としている生徒が多く、無解答者が複数いた。 | | |

| 数学 A (県比較 非常に高い) 正答率50%未満の分析・改善 | | |
|---------------------------------|----------|-----------|
| 問題内容 | 誤答の内容や傾向 | 改善の具体的な方策 |
| なし | なし | なし |

領域、分野ごとの到達度傾向

- 基本的な計算や方程式はよく出来ている。
- 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積を比較し、その関係を理解して解答できる生徒が50%である。
- 反比例のグラフと表の関係を理解し、解答できる生徒が50%である。
- 1次関数で変化の割合が理解できている生徒が50%である。
- 資料の整理の学習で中央値の意味を理解している生徒が50%である。



| 数学 B (県比較 高い) 正答率50%未満の分析・改善 | | |
|---|---|---|
| 問題内容 | 誤答の内容や傾向 | 改善の具体的な方策 |
| <ul style="list-style-type: none"> ∠BAC=110°、BD=ADのとき、∠DAEの大きさを求める。 0点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する。 | <ul style="list-style-type: none"> 無回答が多く、図に記号を使って表現する、文字を使った方程式を立てるなどができない。 説明の無回答が多く、ある事が起こる場合の数を樹形図に記入して比較することができない。 | <ul style="list-style-type: none"> 関連する授業内容や放課後学習で、分かる事を図に記入したり、図に表現させ、問題文の情報を整理させる習慣を身に付けさせる。 関連する授業内容や放課後学習で、分かる事を図に記入したり、図に表現させ、問題文の情報を整理させる習慣を身に付けさせる。また、説明の重要語句を用いる練習をさせる。 |

領域、分野ごとの到達度傾向

- 二等辺三角形の定義や性質を使い、三角形の合同を証明できる生徒が50%である。
- 長文の問題について情報を整理できず、解けない傾向がある。

| 社会 (県比較 非常に高い) 正答率50%未満の分析・改善 | | |
|---|---|--|
| 問題内容 | 誤答の内容や傾向 | 改善の具体的な方策 |
| <ul style="list-style-type: none"> 古代期の歴史的事項相互の前後関係(4択) 壘田永年私財法の歴史背景(資料・記述) 戦国大名が分国法を定めた理由(資料・記述) 促成栽培の出荷状況からの利点(資料・記述) | <ul style="list-style-type: none"> 資料中のキーワードを使っていない。 分国法制定の要点が記述されていない。 グラフの表現趣旨が説明されていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 週末課題として略年表の作成をさせる。 同問題や古代の歴史事象の前後並び変え問題を、週末課題とする。 家庭課題として類似問題を解かせる。授業中、教科書からキーワードを見つける作業を積み重ねる。 家庭課題として類似問題を解かせる。授業中、教科書からキーワードを見つける作業を積み重ねる。 授業中、教科書中の資料をもとに諸角度からわかることを説明させる。 |



領域、分野ごとの到達度傾向

- どの分野も、資料を参考にして記述させる問題の達成率が低い。
- 準正解による正答が目立つ。適切なキーワードを使う(見つける)ことができない。
- 地理分野の達成率がやや高い。
- 歴史的な事象の時間的前後関係の理解が十分ではない。

◎ 基本的な内容(語句)の解答を求める問題については、ほぼ安定した達成率である

| 理科 (県比較 高い) 正答率50%未満の分析・改善 | | |
|---|--|---|
| 問題内容 | 誤答の内容や傾向 | 改善の具体的な方策 |
| ○ベネジクト液の反応色 (技能・知識, 短答) ○ベネジクト液の使い方 (技能・知識, 記述) ○質量パーセント濃度の計算 (思考・技能) ○光の道すじの作図 (思考・技能, 作図) ○震源距離が遠い理由 (思考, 記述) ○地震の被害 (知識, 短答) ○誘導電流が流れる向き (思考・知識, 選択) ○磁界の変化と誘導電流 (思考, 選択) ○単子葉類の葉脈の形状 (知識, 短答) ○植物の分類 (思考・知識, 記述) | ・ベネジクト液の使い方を覚えていない。他と混同している。 ・式の意味を理解していない。 ・半数が無解答。光と見え方の関係を理解していない。 ・一般的な説明にとどまり、具体的な説明になっていない。 ・半数が無解答。 ・磁界の変化と誘導電流の関連を一般化できていない。 ・半数が無解答。 ・具体的に、エンドウの花を思い浮かべることができない。 | 3) 家庭学習や放課後学習の時間を利用して復習する。 1 2) 実験の考察で根拠をもとに説明させ、実験結果の定着を図る。 3) 夏休みの補習で復習する。特に、公式の意味を説明する。 3) 家庭学習や放課後学習の時間を利用して復習する。 1 2) 作図方法だけを覚えさせるのではなく、物の見え方と関係させて考えさせる。 ○授業で、資料や実験結果からわかることを説明する機会を多くする。 ○授業で、日常生活と学習内容の関連を見つけ出させる。 ○授業で、基礎的な学習が終わった後、関連した内容で少し高めの課題を説明させることにより、内容の一般化を図る。 3) 家庭学習や放課後学習の時間を利用して復習する。 3) 生物領域の学習時に授業で復習する。 1 2) 分類の学習では、できるだけ多くの植物や動物の例を考えさせる。 |
| 領域、分野ごとの到達度傾向 ・領域別では、生物的領域の正答率が県より低かった(大谷中正答率 41.7, 県 45.6)。用語など覚えることが多いので、授業等でくり返し復習していく。 ・観点別では、思考・表現が 50%以下の正答率であった(大谷中 38.9)。実験結果の考察や学習のまとめで「書く」学習を取り入れ、それを発表させて評価していくことで、思考力や表現力を高めていきたい。 ・解答形式別では、短答形式の正答率が低い(大谷中 47.6, 県 51.6)。基本的な用語は 2 学期の用語テストに向けて復習させる。 ・課題の内容や提示方法等を工夫することで、理科に対する苦手意識を少しでも低めていきたい。 | | |

| 英語 (県比較 非常に高い) 正答率50%未満の分析・改善 | | |
|---|--|---|
| 問題内容 | 誤答の内容や傾向 | 改善の具体的な方策 |
| ○一般動詞を用いた文の内容に対する応答の仕方。 (“This song is very nice. I like it.”に対して “Oh, do you?”と応答するという対話文で空欄に do を選ぶ問題。) ○初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように、語と語、文と文のつながりなどに注意して文章を書く問題。 (英作文のテーマは『行きたい場所の紹介』で 3 文以上のまとまりのある文章で書く。) | ○「あいづち」のセリフのうちの一つの方法である“oh, do you?”に含まれている意味を理解していない。 ○3 文以上のまとまりのある文章の中に終わりの挨拶の言葉である Thank you. を 1 文に含めていて誤答となった生徒がいた。 | ○さまざまな「あいづち」のセリフを日頃から聞いたり使ったりして慣れさせるだけでなく、その文法的知識も理解させながら授業の中で用いていく。 ○条件作文を書くときの条件指示をしっかりと確認すること。 (挨拶文などは 1 文に含めない事など) 1 2) 基本本文の導入や本文理解終了ごとに、授業の中でモデル文のアレンジ文を書かせて個々に評価する。 3) 単元終了ごとにまとまりのある文章を授業の中で書く時間を制限して設ける。特に無解答の生徒においては、文法ミスを重視せずに、文章量の条件を満たして時間内に書きあげることを目指す。 |

| 領域、分野ごとの到達度傾向 |
|--|
| ◎ 基本的な文法問題については、ほぼ高度な達成率である。 ・長文の内容について問う問題で、要点をつかみ正しくまとめた文で説明するような記述問題が苦手ある。で ・前置詞句の後置修飾を用いた文において、その語順の理解が十分ではない。 ・接続詞を伴うなどの長い文になると理解に時間がかかったり、誤訳となりがちである。 |

読書の秋



いしかわの子ども達 本や新聞をよく読む

石川の子どもたちは、全国の子ども達に比べ読書をしたり、新聞の記事を読んでいることがわかりました。そして、その子どもたちは、学力も高いことが記事に掲載されていました。

図書・文化委員会では読書の取り組みとしてブックトークや新書の紹介をしています。また、読書の旅で一人一人の読書量も調べています。ぜひ、その量が 5000 ページを超えるよう取り組みましょう。ちなみに 1 年生の金田奈々さんは約 7000 ページを達成しました。あともう少しで目標近くの人もあります。この季節を利用して読書にいそしみましょう。

読書は、学力をつける基礎になります。語彙力を増やし、すばらしい文章や発言につなげましょう。

秋のつるべ落とし

防犯意識を！常に

日の暮れるのがとっても早くなりました。暗い道を黒い服装で歩いていると、大変みづらく、ハットさせられることがあります。部活動や文化祭の準備などで、帰りが遅くなってきます。特に下校時には注意をお願いします。

また、交通安全だけでなく不審者にも注意を払ってください。一人で暗がり歩かないで、仲間を誘ってたくさんの人と帰りましょう。声かけや変な行動が見られる場合は、近くの家の人などに助けを求めてください。

小中合同運動会

小中合同運動会も第 24 回を数えるようになりました。濱校長先生の『元気 全力 意識』の 3 つの目標を掲げ運動会が始まりました。小学校の低学年による 80 メートル走では笑顔のステキな場面が見られ、小中合同でのおんぶ大好き、小学校種目の玉入れ、中学校での N 脚リレー、PTA による綱引き種目など大いに盛り上がりしました。

やはり、最後の全員リレーは 3 チームが接戦でゴールし、団体競技の得点も 5 点差というきわどい勝負になりました。優勝した赤チームの皆さんおめでとうございます。



第 21 回だいまるすこやかクラブ

皆さんの買い物によるご協力で大丸さんから 2000 円頂きました。ありがとうございます。